様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２５０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３５２０４４０

研究課題名（和文）日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究

研究課題名（英文）The linguistic and bibliographic Study of Old Korean Books in Japan

研究代表者
藤本　幸夫（Fujimoto, Yukio）

麗澤大学・大学共同利用機関等の部局等・客員教授

研究者番号：７００９３４５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：　日本には朝鮮の古書が多く保存されている。これまでそれらに関する研究は十分されていなかった。当人は日本全国の文庫や図書館、必要に応じて英国・台湾所蔵の朝鮮本をも調査・研究してきた。調査項目は２８項目で、従来にない綿密な調査である。各書については、出版経緯・刊者・刊地・活字の種類なども詳述し、版が複数の場合には、各版の関係についても明らかにした。
　朝鮮本の研究は朝鮮学のみならず、中国学・日本学にも資すので、重要である。

研究成果の概要（英文）：Many old Korean books have been preserved in Japan. The study for these books was not sufficient. I studied these books preserved in private or public libraries in Japan and abroad libraries, for example, royal library of Taiwan and British Library in London, if necessary. Items of my study for one book consists of 28 items. I describe in detail the process of publication, publisher, the place of publication and so on that ware not described before. The study of Korean books contributes to not only Koreanology, but also to Chinology and Japanology.

研究分野：朝鮮文献学・朝鮮語学

キーワード：朝鮮文献学　中国文献学　日本文献学　木版　活字　出版文化　訓読

１．研究開始当初の背景

(１)　日本は古代より、中国・朝鮮から深甚なる文化的影響を受けてきた。そのうち筆者は特に朝鮮を対象としている。朝鮮の古代 3 国、すなわち高句麗・百済・新羅と日本の古代との関係は極めて深い。人的往来は頻繁であったであろうし、歴史時代になってからは、日本側からそれら 3 国に学者や技術者の派遣を依頼している。その影響の内容は種々であるが、筆者はその核心となる書籍の影響に関心を寄せてきた。百済から６世紀に仏教が日本に伝えられてからは、仏書を中心に多種多用の書籍が数多流入した。当時のものは殆ど確認できないが、奈良時代以降その写本は連綿と受け継がれ、江戸時代にまで使用されて来、その 1 部は江戸時代に木版本として出版されもしている。それら日本伝来本の殆どは、現在本国である韓国・朝鮮には伝わらず、日本にのみ伝存することが多い。近年「大蔵経」から角筆記号による訓読書き込みが発見され、また正倉院や東大寺図書館に所蔵されている古写経の中に、新羅経と確認し得るものが出現した。それは東大寺図書館所蔵『華厳経』であるが、本文右傍に角筆で、略体漢字を用いた新羅の「吐」(送り仮名)が記されている。新羅の訓読法には、日本の奈良時代訓読法とも共通点が見受けられ、日本の訓読法成立に大きな影響を与えた可能性を示唆する。このような点からも朝鮮本の研究は、重要な意味を有する。

(２)　現在現物が確認できるのは、殆どが室町時代以降のものである。初彫高麗大蔵経・教蔵・再彫大蔵経は、本国である韓国や朝鮮に残存するのは少なく、その多くは却って日本に伝わる。初彫高麗大蔵経は、韓国で近年存在が確認されつつあるが、それでも 300 巻程度であるが、南禅寺には 1712 冊が伝存し、韓国の 5.6 倍も存在するのである。また戦国大名大内義隆の「日本／国王／之印」「太宰／大貳」印を有する『続三綱行實』や『唐駱賓王詩集』の伝わるのは、稀有の例である。豊臣秀吉の朝鮮侵略時に際しては、従軍武将によって、多量の朝鮮本が齎来され、その多くが完全な形で伝存する。戦場において齎来する朝鮮本の選定に関与したのは、同行して筆墨通訳や兵士の治療や埋葬に当たった医師や僧侶であったと思われる。従ってこれらの人々の意向や趣向が大いに関わっているのは当然であろう。これら朝鮮本にたいする研究者はほとんどなく、何処に、どのような書があるのかも、十分知られなかった。筆者はそのような状況を打開したいと考えた。

２．研究の目的

(１)　朝鮮本は古代には仏書が中心で、外典はわずかである。仏書は僧侶の間で転写を重ねて読み続けられてきた。豊臣秀吉朝鮮侵略時には、経・史・子・集の 4 部に亙る広分野の朝鮮本が日本に齎された。同時に朝鮮の知識人も連行されてきた。その中で有名な人物は、朝鮮の巨儒退渓李滉の弟子姜沆で、藤原惺窩と交流があり、朝鮮朱子学の日本への伝来に与った。惺窩の高弟林羅山は徳川家康に仕え、朱子学が江戸幕府の官学として採用された。羅山は日本に齎されていた朝鮮本を愛読し、その識語を付した朝鮮本が多く伝わっている。また退渓書を初めとする朝鮮朱子学書や朝鮮学者の撰書、更には中国の諸分野の朝鮮刊本が底本とされて、江戸初期には和刻本が多く出されている。それらが日本の学問・学術に与えた影響は大きい。江戸幕府・江戸時代の思想的背景となった朱子学は、上述の如く朝鮮本の大きな影響のもとに成立している。それらを明らかにするためにも、朝鮮本の研究は必要である。

(２)　朝鮮本は中国本を底本としているものが極めて多い。その中には本国の中国で失われたものもある。例えば、唐盧仝撰『玉川先生詩集』・唐駱賓王撰『唐駱賓王詩集』・闕名氏撰『會纂宋岳鄂武穆王精忠録』など、枚挙に遑ない。これら中国佚伝書は、中国学の研究にも大いに資するのである。筆者は中国学にも関心が深く、朝鮮本の研究が中国学の研究に裨益することを、研究目的の一と考えている。

３．研究の方法

(１)　筆者の研究方法は、日本各地の文庫や図書館をめぐり、原書を手に取って詳細な記述をし、研究を加えることである。筆者の研究対象は日本現存朝鮮本であるが、場合によっては参考のために韓国に調査に出かけることもある。明治初期まで日本に現存し、英国の外交官アーネスト・サトウに購入されて、現在は大英図書館に所蔵される朝鮮本、あるいは中国人学者楊守敬に購われ、現在は台湾故宮図書館に架蔵される朝鮮本をも対象に入れている。

(２)　筆者の調査は原本に対して、２８項目を設定している。それらは、書名・撰者・版種・刊者・刊年・刊地・装幀・寸法・紙質・版式・版心・構成・序・跋・刊記・原刊記・刻手名・内賜記・諺解・吐・書扉・蔵書印・識語・註記・撰者伝・藍本・研覈・所蔵者である。これらはこれまで、善本解題以外には採られなかった方法である。筆者の記述を見れば、原本が眼前に髣髴とすることを目的としている。そして筆者の方法は、従来の目録では記述されていなかった活字の種類・刊者・刊地などにも及んでいる。特に木版本の場合には、版心や巻末に刻された刻手名を網羅的に集め、それらを利用することによって刊年・刊地の特定に努めた。これは従来試みられていなかった。この試図によって、15－17 世紀の書籍が、全羅道で刊行されている場合の多いことが、明らかになった。また日本

現存朝鮮本の調査を行うことによって、15・16 世紀の朝鮮全土における版木の所在地を著録した『攷事撮要』に、漏落した書籍が甚だ多く、それらが日本に保存されていることも判明した。

４．研究成果

（１）　５年にわたる調査・研究により、東洋文庫・尊経閣文庫・東大図書館・天理大学図書館・京大図書館・大阪府立図書館・陽明文庫・杏雨書屋などにおいて、約８００冊の朝鮮本を調査し得た。

（２）　調査・研究の結果として『龍龕手鏡(鑑)研究』を刊行した。『龍龕手鏡(鑑)』は、遼釈行均が 997 年に撰した書で、当時幽州(北京)の寺刹に所蔵されていた仏典に対する音義書である。その半世紀後には遼から『契丹大蔵経』が出版される状況にあったので、多量の仏典が存在していたものと思われる。それらを存分に利用して著した書であるだけに、また当時は写本の時代であっただけに、異体字が多く収録されており、後代音義書よりも異体字辞書として専ら活用された。同類の書の中でも、最も多くの異体字が収録されている。中国には宋代、朝鮮では高麗時代に刊行されている。日本には『類聚名義抄』への影響が認められるので、それ以前に流入していたのではないかという説もある。日本では 17 世紀に古活字本が刊行されている。『龍龕手鏡(鑑)』は、中国・朝鮮・日本で重宝された辞書である。この書は朝鮮王朝時代には 2 度刊行されている。１は成宗 3 年(1472)頃刊本、２は明宗 18 年(1563)刊本である。前者の完本は日本に 2 部現存し、そのうちの 1 部はその刊行に実質的に関与した釈信眉の蔵書印が冊首にあるので、信眉旧蔵書とわかる。良質紙を用いた善本である。この成宗刊本は韓国には存在しない。拙著では『龍龕手鏡(鑑)』全体について述べ、又朝鮮刊本とその出版状況などを、筆者の調査及び研究結果とを用いて明らかにした。英文論文 The Current State of Research on Catalogues of Old Korean Books では、朝鮮の書籍目録とその成立や特徴について述べ、また Old Korean Books Preserved in Japan では、これまでの調査結果を踏まえ、日本現存朝鮮本について述べた。
その他の諸論文では、朝鮮における出版文化のあり方、蓬左文庫から流出した朝鮮本に対する考証など、多くの論文を公にした。また他方では、10 回に及ぶ招待講演の機会を得て、朝鮮本に対する理解を深めてもらえるよう、研究成果を活用した。更に『日本現存朝鮮本研究　集部』(２００６年)の継続として、この 5 年間の調査・研究結果を盛り込んだ『日本現存朝鮮本研究　史部』を来春に刊行の予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４　件）
① 藤本幸夫　朝鮮の出版文化、東洋文化研究、査読無、１６輯、2014、pp.239-250
② Fujimoto Yukio　The Current State of Research on Catalogues of Old Korean Books, ACTA ASIATICA, 査読無、106、2014、pp.45-68
③ Fujimoto Yukio　Old Korean Books Preserved in Japan, MEMOIRS OF THE RESEARCH DEPARTMENT OF THE TOYO BUNKO, 査読無、69, 2012, pp.1-17
④ 藤本幸夫　国立ギメ東洋美術館所蔵朝鮮本について、朝鮮学報、査読有、210 輯、pp.1-37

〔学会発表〕（計　１１　件）
① 藤本幸夫、　朝鮮本と蓬左文庫、　蓬左文庫開館 80 周年記念講演(招待講演)、2015,9,18, 蓬左文庫(愛知県・名古屋市)
② 藤本幸夫　ハングルの地方普及―『千字文』を中心にして―、韓国ハングル博物館開館記念講演会(招待講演)、2014.12.5. ハングル博物館(ソウル・韓国)
③ 藤本幸夫　日本現存諺解本について、招待講演、2014.12.4.　東国大学(ソウル・韓国)
④ 藤本幸夫　日本東京大学所蔵小倉文庫について、招待講演、2014.5.26.　高麗大学校(ソウル・韓国)
⑤ 藤本幸夫　朝鮮朝における金属活字と印刷・出版、招待講演、2014.4.26.　凸版印刷博物館(東京都)
⑥ 藤本幸夫　日本現存朝鮮本とその研究、招待講演、2014.1.24. 国文学研究資料館(東京都・立川市)
⑦ 藤本幸夫　朝鮮の出版文化、招待講演、2013.11.15. 学習院大学東洋文化研究所、（東京都）
⑧ 藤本幸夫　朝鮮の出版文化、招待講演、2013.2.8. 国会図書館関西館（奈良県）
⑨ 藤本幸夫　朝鮮印刷文化と日本、招待講演、2012.10.15.　奈良大学（奈良市）
⑩ 藤本幸夫　朝鮮目録学の今日、東方学会第 61 回大会、2011.11.4. 東方学会（東京都）
⑪ 藤本幸夫　日本現存韓国古書について、招待講演、2011.9.15. 高麗大学（ソウル・韓国）

〔図書〕（計　１２　件）
① 藤本幸夫　韓国東国大学出版部、日本現存朝鮮本研究　史部、2017. pp.1500
② 藤本幸夫　新村財団、新村財団 35 周年記念論文集、2016、pp.117-135

③ 藤本幸夫　麗澤大学出版会、龍龕手鏡(鑑)研究、2015．pp.556
④ 藤本幸夫　蓬左文庫　豊かなる朝鮮王朝の文化―交流の遺産―、2015．pp.4-9
⑤ 藤本幸夫 勉誠出版、古典学が結ぶ日本と韓国、2015．pp.12-23
⑥ 藤本幸夫　勉誠出版、朝鮮朝後期の社会と思想、2015．pp.181-192
⑦ 藤本幸夫　凸版印刷博物館、朝鮮金属活字文化の誕生展　講演録、2014．pp.12-24
⑧ 藤本幸夫 クオン、韓国・朝鮮の知を読む、2014．pp.540-550
⑨ 藤本幸夫 他編　韓国博文社、燕行使と通信使、2014．pp.650
⑩ 藤本幸夫 翰林書房、武家の文物と源氏物語絵、2013．pp．116-135
⑪ 藤本幸夫　高岡市 万葉歴史館、万葉集と環日本海、2012．pp.10-20
⑫ 赤尾栄慶・藤本幸夫他 14 名　京都国立博物館、建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究―建仁寺両足院聖教目録Ⅲ、2011

６．研究組織
(1)研究代表者
藤本　幸夫（FUJIMOTO, Yukio ）
麗澤大学・言語研究センター・客員教授
研究者番号：７００９３４５８

(2)研究分担者
無　　（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
無　　（　　）
研究者番号：